

本号は、中国都市における生活活動システムを巡る諸問題を扱った特集号である。ここに収録した研究報告は、科学研究費補助金「日中都市における生活活動システムの時間地理学的比較研究」(平成12～13年度、基盤研究(C)(2)、課題番号12680072、研究代表者 荒井良雄)および「日中都市世帯における就業と家事活動の調整に関する時間地理学的比較研究」(平成13～14年度、基盤研究(C)(2)、課題番号13837009、研究代表者 岡本耕平)の成果をとりまとめたものである。

少子化や高齢者問題などへの対応のために、社会システムを再構築することは日本のみならず世界各国において重要な課題とされている。これらの問題に対する今後の対処の方向を議論しようとするには、日本国内での現状把握だけでは限界があり、社会条件の異なる複数の国・地域における生活活動システムを比較することによって、従来とは異なる発想での問題解決の可能性を探索することが有効であろう。東アジア的家族観の伝統を残しつつも西欧式の近代資本主義社会を形成し、かつ、すでに都市化の成熟段階にある日本都市と、社会主義社会としての枠組みを維持しつつも開放経済方式を大幅に取り入れ、急速な都市化の過程にある中国都市とでは生活活動システムを成立させている条件が大きく異なっている。一方で両国は、その経緯こそ異なるものの、双方とも近年に著しい出生率の低下を経験しており、それに伴って今後急速に高齢化問題に直面するようになることが予測されている。ここでは、このような状況にある両国都市において、生活活動システムの特質について、実際の生活活動データに基づいた比較分析を試みた。

グローバル化の流れの中で日中両国の経済的結びつきはますます強くなってきているけれども、地域の生活レベルでのお互いの理解は必ずしも十分であるようには見えない。本号が、両国の相互理解の深化と友好関係の発展にわずかでも寄与することができれば執筆者一同の望外の喜びである。なお、本号の編集作業は長沼、和田が担当した。